

## 参考文献一覧

## 〈邦文献〉

## あ

- 秋山知宏 (2015) 「『存在の大きい連鎖』のサステナビリティ」『自然といのちの尊さについて考える』竹村牧男／中川光弘監修／岩崎大／関陽子／増田敬祐編著、ノンブル社、333-400頁
- 朝市羽客 (2015) 「夜半考——洪水の時代と屹立する歷程」『夜半』第1号、83-89頁
- 浅井美智子／柘植あづみ編 (1995) 『つくられる生殖神話——生殖技術・家族・生命』制作同人社／サイエンスハウス
- 朝岡幸彦編 (2005) 『新しい環境教育の実践』高文堂出版社
- 浅田彰 (1982) 『構造と力——記号論を超えて』勁草書房
- 浅田彰 (1986) [1984] 『逃走論——スキゾ・キッズの冒険』ちくま文庫
- 浅野智彦 (2013) 『『若者』とは誰か——アイデンティティの30年』河出ブックス
- 浅羽通明 (2006) 『右翼と左翼』幻冬舎新書
- 東浩紀 (1998) 『存在論的、郵便的——ジャック・デリダについて』新潮社
- 東浩紀 (2001) 『動物化するポストモダン——オタクから見た日本社会』講談社現代新書
- 東浩紀 (2007) 『ゲーム的リアリズムの誕生——動物化するポストモダン2』講談社現代新書
- 東浩紀 (2015) [2011] 『一般意志2.0——ルソー、フロイト、グーグル』講談社文庫
- 東浩紀 (2017) 『ゲンロン0——観光客の哲学』ゲンロン
- 新睦人／大村英昭／宝月誠／中野正大／中野秀一郎 (1979) 『社会学のあゆみ』有斐閣新書
- 新睦人／中野秀一郎 (1984) 『社会学のあゆみパート2——新しい社会学の展開』有斐閣新書
- 穴見慎一 (2018) 「〈制度的人間〉論——環境破壊に学ぶ人間像」『総合人間学研究』総合人間学会編、第12号、7-17頁
- 穴見慎一 (2019) 「〈制度的人間〉論II——責任の視座から人間を考える」『総合人間学研究』総合人間学会編、第13号、1-16頁
- 阿部潔 (1998) 『公共圏とコミュニケーション——批判的研究の新たな地平』ミネルヴァ書房
- 阿部謹也 (1995) 『『世間』とは何か』講談社現代新書
- 阿部謹也 (2001) 『学問と『世間』』岩波新書

- 阿部康隆／淡路剛久編（1998）[1995]『環境法（第2版）』有斐閣
- 網野善彦（1978）『無縁・公界・楽——日本中世の自由と平和』平凡社選書
- 網野善彦（1997）『日本社会の歴史（上）』岩波新書
- 網野善彦（2000）『「日本」とは何か（日本の歴史0）』講談社
- 網野善彦（2005）『日本の歴史をよみなおす（全）』岩波文庫
- 有賀誠／伊藤恭彦／松井暁編（2004）『現代規範理論入門——ポスト・リベラリズムの展開』ナカニシヤ出版
- 有馬学（1999）『「国際化」の中の帝国日本（日本の近代4）』中央公論新社
- 五百旗頭真（2001）『戦争・占領・講和（日本の近代6）』中央公論新社
- 石黒浩（2015）『アンドロイドは人間になれるか』文芸春秋
- 石坂昭雄／船山栄一／宮野啓二／諸田実（1985）[1976]『西洋経済史（新版）』有斐閣双書
- 石橋政嗣（1980）『非武装中立論』社会新書
- 石原莞爾（1993）『最終戦争論・戦争史大観』中公文庫
- 一条真也（2014）『終活入門』実業之日本社
- 伊藤俊太郎編（1996）『環境倫理と環境教育（文明と環境14）』朝倉書店
- 伊藤俊太郎（2007）[1978]『近代科学の源流』中公文庫
- 稲葉陽二（2007）『ソーシャル・キャピタル——「信頼の絆」で解く現代経済・社会の諸課題』生産性出版
- 井上真（2004）『コモンズの思想を求めて——カリマンタンの森で考える』岩波書店
- 井上真編（2008）『コモンズ論の挑戦——新たな資源管理を求めて』新曜社
- 井上真・宮内泰介編（2001）『コモンズの社会学——森・川・海の資源共同管理を考える』新曜社
- 井上靖（2000）[1995]『補陀落渡海記——井上靖短篇名作集』講談社学芸文庫
- 猪木武徳（2000）『経済成長の果実（日本の近代7）』中央公論新社
- 猪木武徳／高橋進（1999）『冷戦と経済繁栄（世界の歴史29）』中央公論新社
- 今西錦司（1972）[1941]『生物の世界』講談社文庫
- 今西錦司（1994）[1949]『生物社会の論理』平凡社
- 岩上真珠／鈴木岩弓／森謙二／渡辺秀樹（2010）『いま、この日本の家族——絆のゆくえ』弘文堂
- 岩木秀夫（2004）『ゆとり教育から個性浪費社会へ』ちくま新書
- 岩佐茂（1994）『環境の思想——エコロジーとマルクス主義の接点』創風社
- 岩佐茂／尾関周二／島崎隆／高田純／種村完司（1986）『哲学のリアリティ——カント・

ヘーゲル・マルクス』有斐閣

- 上柿崇英 (2014) 「『自己家畜化論』から『総合人間学的本性論・文明論』へ——小原秀雄「自己家畜化論」の再検討と総合人間学的理論構築のための一試論」『総合人間学 (電子ジャーナル版)』、総合人間学会編、第8号、学文社、142-146頁
- 上柿崇英 (2015a) 「環境哲学とは何か」『環境哲学と人間学の架橋』上柿崇英/尾関周二編、世織書房、40-72頁
- 上柿崇英 (2015b) 「環境哲学における「持続不可能性」の概念と「人間存在の持続不可能性」」『環境哲学と人間学の架橋』上柿崇英/尾関周二編、世織書房、171-200頁
- 上柿崇英 (2015c) 「〈生活世界〉の構造転換」『自然といのちの尊さについて考える』竹村牧男/中川光弘監修/岩崎大/関陽子/増田敬祐編著、ノンブル社、99-156頁
- 上柿崇英 (2016) 「現代人間学への社会的・時代的要請とその本質的課題——「理念なき時代」における〈人間〉の再定義をめぐる」『現代人間学・人間存在論研究』、大阪府立大学環境哲学・人間学研究所、第1号、7-92頁
- 上柿崇英 (2017) 「“人間”の存在論的基盤としての〈環境〉の構造と〈生〉の三契機——環境哲学と〈生〉の分析からのアプローチ」『現代人間学・人間存在論研究』大阪府立大学環境哲学・人間学研究所、第2号、7-175頁
- 上柿崇英 (2018) 「人間的〈関係性〉の構造と〈共同〉の成立条件——「ゼロ属性の倫理」と「不介入の倫理」をめぐる」『現代人間学・人間存在論研究』大阪府立大学環境哲学・人間学研究所、第3号、7-216頁
- 上柿崇英 (2020) 「〈生活世界〉の構造転換と〈自己完結社会〉の未来——〈無限の生〉と〈有限の生〉をめぐる人間学的考察」『現代人間学・人間存在論研究』大阪府立大学環境哲学・人間学研究所、第4号、9-311頁
- 上柿崇英/尾関周二編 (2015) 『環境哲学と人間学の架橋』世織書房
- 魚戸おさむ/北原雅紀脚本 (2008) 『玄米せんせいの弁当箱 (第2巻)』小学館
- 宇沢弘文 (2000) 『社会的共通資本』岩波新書
- 宇沢弘文/茂木愛一郎編 (1994) 『社会的共通資本——コモンズと都市』東京大学出版会
- 内山節 (2010) 『共同体の基礎理論——自然と人間の基層から』農文協
- 海上知明 (2005) 『環境思想——歴史と体系』NTT出版
- 宇野常寛 (2011a) [2008] 『ゼロ年代の想像力』ハヤカワ文庫
- 宇野常寛 (2011b) 『リトル・ピープルの時代』幻冬舎
- 宇野常寛 (2017) 『母性のディストピア』集英社
- 梅本堯夫/大山正編 (1994) 『心理学史への招待——現代心理学の背景』サイエンス社
- 海野弘 (1998) 『世紀末シンドローム——ニューエイジの光と闇』新曜社

- 江藤淳 (1993) [1967] 『成熟と喪失——“母”の崩壊』 講談社文芸文庫
- NHKクローズアップ現代取材班編 (2010) 『助けてと言えない——いま30代に何が』 文芸春秋
- NHKスペシャル「NEXT WORLD」制作班 (2015) 『NEXT WORLD——未来を生きるためのハンドブック』 NHK出版
- NHK「無縁社会プロジェクト」取材班編 (2010) 『無縁社会——“無縁死” 3万2000人の衝撃』 文芸春秋
- NHK「病の起源」取材班編 (2009) 『病の起源2——読字障害／糖尿病／アレルギー』 日本放送出版協会
- 大井正／寺沢恒信 (2014) [1962] 『世界十五大哲学』 PHP文庫
- 大川周明 (2016) 『復興亜細亜の諸問題・新亜細亜小論』 中公文庫
- 大久保喬樹 (2003) 『日本文化論の系譜——『武士道』から『「甘え」の構造』まで』 中公新書
- 大倉茂 (2015) 『機械論的世界観批判序説——内省的理性と公共的理性』 学文社
- 大澤真幸 (2008) 『不可能性の時代』 岩波新書
- 大澤真幸 (2009) [1996] 『増補 虚構の時代の果て』 ちくま学芸文庫
- 大澤真幸 (2018) [2015] 『自由という牢獄——責任・公共性・資本主義』 岩波現代文庫
- 大塚英志 (2003) [1989] 『定本 物語消費論』 角川文庫
- 大塚久雄 (1969) 『大塚久雄著作集 (第8巻)』 岩波書店
- 大塚久雄 (2000) [1955] 『共同体の基礎理論』 岩波現代文庫
- 大貫良夫／前川和也／渡辺和子／屋形禎亮 (1998) 『人類の起原と古代オリエント (世界の歴史1)』 中央公論社
- 大野晋 (2013) [1997] 『日本人の神』 河出文庫
- 大庭健 (2008) 『いま、働くということ』 ちくま新書
- 岡倉天心 (2012) 『茶の本／日本の目覚め／東洋の思想』 櫻庭信之／斎藤美洲／富原芳彰 ほか訳、ちくま学芸文庫
- 岡田莊司編 (2010) 『日本神道史』 吉川弘文館
- 岡田尊司 (2011) 『愛着障害——子ども時代を引きずる人々』 光文社新書
- 岡野守也 (1990) 『トランスパーソナル心理学』 青土社
- 岡野守也 (2010) 『仏教とアドラー心理学——自我から覚りへ』 校成出版社
- 岡村道雄 (2000) 『縄文の生活誌 (日本の歴史1)』 講談社
- 岡本勉 (2018) 『1985年の無条件降伏——ブラザ合意とバブル』 光文社新書
- 小熊英二 (2002) 『〈民主〉と〈愛国〉——戦後日本のナショナリズムと公共性』 新曜社

- 小熊英二 (2009a) 『1968——若者たちの叛乱とその背景 (上)』新曜社
- 小熊英二 (2009b) 『1968——若者たちの叛乱とその背景 (下)』新曜社
- 小崎哲也 (2018) 『現代アートとは何か』河出書房新社
- 尾関周二 (1983) 『言語と人間』大月書店
- 尾関周二 (1992) 『遊びと生活の哲学——人間の豊かさと自己確証のために』大月書店
- 尾関周二 (1995) 『現代コミュニケーションと共生・共同』青木書店
- 尾関周二 (1996) 『環境哲学の探求』大月書店
- 尾関周二 (2000) 『環境と情報の人間学——共生・共同の社会に向けて』青木書店
- 尾関周二編 (2001) 『エコフィロソフィーの現在——自然と人間の対立をこえて』青木書店
- 尾関周二 (2002) [1989] 『言語的コミュニケーションと労働の弁証法——現代社会と人間の理解のために (増補改訂版)』大月書店
- 尾関周二 (2007) 『環境思想と人間学の革新』青木書店
- 尾関周二 (2015) 『多元的共生社会が未来を開く』農林統計出版
- 尾関周二／亀山純生／武田一博／穴見愼一編 (2011) 『〈農〉と共生の思想——〈農〉の復権の哲学的探求』、農林統計出版
- 尾関周二／武田一博編 (2012) 『環境哲学のラディカリズム —— 3・11をうけとめ脱近代へ向けて』学文社
- 尾関周二／矢口芳生監修／亀山純生／木村光伸編集 (2016) 『共生社会〈1〉——共生社会とは何か』農林統計出版
- 尾関周二／矢口芳生監修／古沢広祐／津谷好人／岡野一郎編集 (2016) 『共生社会〈2〉——共生社会をつくる』農林統計出版
- 小田垣雅也 (1995) 『キリスト教の歴史』講談社学術文庫
- 小田実 (1986) 『われ=われの哲学』岩波新書
- 小田光雄 (1997) 『〈郊外〉の誕生と死』青弓社
- 落合恵美子 (1989) 『近代家族とフェミニズム』勁草書房
- 落合陽一 (2018) 『デジタルネイチャー——生態系を為す汎神化した計算機による侘と寂』PLANETS
- 小原秀雄 (1963) 『21世紀の人類——人間〈ホモ・サピエンス〉はどこへ行く』講談社
- 小原秀雄 (1974) [1970] 『人間とは何か——人間学の建設のために』『人間の動物学』季節社、243-272頁
- 小原秀雄 (1978) 『環境と人類』共立出版
- 小原秀雄 (1981) 『街のホモ・サピエンス——動物学的人間論』合同出版

- 小原秀雄（1985）『人〔ヒト〕に成る』大月書店
- 小原秀雄（2000）『現代ホモ・サピエンスの変貌』朝日選書
- 小原秀雄（2006）『哺乳類の世界（小原秀雄著作集2）』明石書店
- 小原秀雄監修／阿部治／R・エバノフ／鬼頭秀一解説（1995）『環境思想の出現（環境思想の系譜1）』東海大学出版会
- 小原秀雄／岩城正夫（1984）『自己家畜化論』群羊社
- 小原秀雄／羽仁進（1995）『ペット化する現代人』NHKブックス
- 小原秀雄監修／R・エバノフ／戸田清解説（1995）『環境思想と社会（環境思想の系譜2）』東海大学出版会

## か

- 鹿児島医療・社会・倫理研究会／増田彰則編（2019）『危機にある子育て環境——子ども  
の睡眠と低年齢化するゲーム・スマホ依存』南日本新聞社
- 加地伸行（1990）『儒教とはなにか』中公新書
- 加藤尚武（1991）『環境倫理学のすすめ』丸善ライブラリー
- 加藤尚武（2005）『新・環境倫理学のすすめ』丸善ライブラリー
- 金子淳（2017）『ニュータウンの社会史』青弓社
- 金子大栄校注（1981）[1931]『歎異抄』岩波文庫
- 金谷治訳注（1999）[1963]『論語』岩波文庫
- 亀山純生（1989）『人間と価値』青木教養選書
- 亀山純生（2005）『環境倫理と風土——日本の自然観の現代化の視座』大月書店
- 亀山純生（2011）「日本社会における〈農〉の復権の根本的意義と緊急性——現代の“人  
間の危機”克服と共同性回復の視点から」『〈農〉と共生の思想——〈農〉の復権の哲  
学的探求』尾関周二／亀山純生／武田一博／穴見愼一編、農林統計出版、275-298頁
- 亀山純生（2012）『〈災害社会〉・東国農民と親鸞浄土教——夢から解読する〈歴史に埋め  
込まれた親鸞〉と思想史的意義』農林統計出版
- 亀山純生監修／増田敬祐編集（2020）『風土的環境倫理と現代社会——〈環境〉を生きる  
人間存在のあり方を問う』農林統計出版
- 川上紳一（2000）『生命と地球の共進化』NHKブックス
- 河上徹太郎／竹内好 他（1979）『近代の超克』富山房百科文庫
- 川北稔（2019）『8050問題の深層——「限界家族」をどう救うか』NHK出版新書
- 河邑厚徳／グループ現代（2000）『エンデの遺言——根源からお金を問うこと』NHK出  
版

- 川村京子／漆田典子（1995）『人間の研究』岩波ブックサービスセンター
- 川村邦光（2015）『吊いの文化史——日本人の鎮魂の形』中公新書
- 菊池理夫（2004）『現代のコミュニタリアニズムと「第三の道」』風行社
- 岸雅彦（2015）『断片的なものの社会学』朝日出版社
- 木城ゆきと（1995）『銃夢（第9巻）』集英社
- 北一輝（2014）[1923]『日本改造法案大綱』中公文庫
- 北岡伸一（1999）『政党から軍部へ（日本の近代5）』中央公論新社
- 北沢洋子（2003）『利潤か人間か——グローバル化の実態と新しい社会運動』コモンズ
- 北原淳（1996）『共同体の思想——村落開発理論の比較社会学』世界思想社
- 鬼頭秀一（1996）『自然保護を問いなおす——環境倫理とネットワーク』ちくま新書
- 鬼頭秀一／福永真弓編（2009）『環境倫理学』東京大学出版会
- 鬼頭宏（2002）『文明としての江戸システム（日本の歴史19）』講談社
- 木下謙治監修／園井ゆり／浅利宙編（2016）[2001]『家族社会学——基礎と応用（第3版）』九州大学出版
- 木下太志（2003）『狩猟採集民の人口』『人類史のなかの人口と家族』木下太志／浜野潔編、晃洋書房、1-22頁
- 木下太志／浜野潔編（2003）『人類史のなかの人口と家族』晃洋書房
- 木村靖二／柴宜弘／長沼秀世（1997）『世界大戦と現代文化の開幕（世界の歴史26）』中央公論社
- 木村忠正（2012）『デジタルネイティブの時代——なぜメールをせずに「つぶやく」のか』平凡社新書
- 木村敏（1972）『人と人之間——精神病理的日本論』弘文堂
- 木村礎（1983a）『村の語る日本の歴史8——古典・古代編』そしえて
- 木村礎（1983b）『村の語る日本の歴史9——近世編1』そしえて
- 木村礎（1983c）『村の語る日本の歴史10——近世編2』そしえて
- 九鬼周造（2009）[1979]『「いき」の構造（他二篇）』岩波文庫
- 久野収（1996）『市民主義の成立』春秋社
- 倉沢進／秋元律郎編（1990）『町内会と地域集団』ミネルヴァ書房
- 倉田一郎（1977）『農と民俗学（ほるぶ版）』岩崎美術社
- 倉田百三（2008）[1940]『愛と認識との出発』岩波文庫
- 栗岡幹英（1993）『役割行為の社会学』世界思想社
- 栗原敬遠（2015）『暗黒地域論序説——諸星大二郎『闇の客人』を読む（創刊号収録）』『夜半』第1号、17-31頁

- 栗原敬遠 (2016) 「さらば愛しき大地——伊藤整『近代日本における「愛」の虚偽』を読む」『夜半』第2号、91-111頁
- 黒田恭史 (2003) 『豚のPちゃんと32人の小学生——命の授業900日』ミネルヴァ書房
- 桑子敏雄 (1999) 『環境の哲学』講談社学術文庫
- 桑子敏雄 (2005) 『風景のなかの環境哲学』東京大学出版会
- 玄田有史 (2001) 『仕事のなかの曖昧な不安——揺れる若年の現在』中央公論新社
- 玄田有史／曲沼美恵 (2004) 『ニート——フリーターでもなく失業者でもなく』幻冬舎
- 小泉格／安田喜憲編 (1995) 『地球と文明の周期 (文明と環境1)』朝倉書店
- 高坂正顕／西谷啓治／高山岩男／鈴木成高 (1943) 『世界史的立場と日本』中央公論社
- 香坂玲編 (2012) 『地域のレジリアンス——大災害の記憶に学ぶ』清水弘文堂書房
- 厚生労働省 (2018) 『厚生労働白書 (平成30年版)』
- 厚生労働省 (2019) 『高齢社会白書 (令和元年版)』
- 河野勝彦 (2000) 『環境と生命の倫理』文理閣
- 河野康子 (2002) 『戦後と高度成長の終焉 (日本の歴史24)』講談社
- 古賀正義／石川良子編 (2018) 『ひきこもりと家族の社会学』世界思想社
- 國分功一郎 (2015) [2011] 『暇と退屈の倫理学 (増補新版)』太田出版
- 古在由重編 (1969) 『マルクス主義哲学 (第1巻)』青木書店
- 古城泰 (2003) 「農耕の起源と人口」『人類史のなかの人口と家族』木下太志／浜野潔編、見洋書房、23-41頁
- 古関彰一 (2009) [1989] 『日本国憲法の誕生』岩波現代文庫
- 小谷汪之 (1982) 『共同体と近代』青木書店
- 小谷汪之 (1991) 『歴史と人間について——藤村と近代日本』東京大学出版会
- 小林英夫 (2014) 『自民党と戦後史』中経出版
- 小松和彦編 (2011) 『妖怪学の基礎知識』角川選書
- 小峰隆夫 (2019) 『平成の経済』日本経済新聞出版社
- 小宮山宏編 (2007) 『サステナビリティ学への挑戦』岩波書店
- 子安宣邦 (2010) [1998] 『江戸思想史講義』岩波現代文庫

## さ

- 齋藤純一 (2000) 『公共性』岩波書店
- 齋藤純一 (2005) 『自由』岩波書店
- 齋藤貴男 (2004) 『教育改革と新自由主義』寺子屋新書
- 齋藤環 (2013) 『承認をめぐる病』日本評論社

- 財務省 (2019) 『日本の財政関係資料 (令和元年6月版)』
- 佐伯啓思 (2015) [2004] 『20世紀とは何だったのか——西洋の没落とグローバリズム』 PHP研究所
- 酒井隆史 (2001) 『自由論——現在性の系譜学』 青土社
- 坂口安吾 (2008) 『墮落論・日本文化私観 (他二十二篇)』 岩波文庫。
- 坂本多加雄 (1998) 『明治国家の建設 (日本の近代2)』 中央公論新社
- 相良亨 (1984) 『日本人の心』 東京大学出版会
- 相良亨 (1989) 『日本の思想——理・自然・道・天・心・伝統』 ペリかん社
- 相良亨 (1990) [1984] 『日本人の死生観 (新装版)』 ペリかん社
- 桜井智恵子/廣瀬義徳編 (2013) 『揺らぐ主体/問われる社会』 インパクト出版社
- 佐々木健一 (2019) [2004] 『美学への招待 (増補版)』 中公新書
- 佐々木隆 (2002) 『明治人の力量 (日本の歴史21)』 講談社
- 佐々木毅/金泰昌編 (2001) 『公と私の思想史 (公共哲学1)』 東京大学出版会
- 佐藤彰一/池上俊一 (1997) 『西ヨーロッパ世界の形成 (世界の歴史10)』 中央公論社
- 佐藤弘夫編 (2005) 『概説 日本思想史』 ミネルヴァ書房
- 佐藤慶幸 (2003) 「公共性の構造転換とアソシエーション革命」 『市民社会と批判的公共性』 佐藤慶幸/那須壽/大屋幸恵/菅原謙編、文眞堂、3-25頁
- 佐藤慶幸/那須壽/大屋幸恵/菅原謙編 (2003) 『市民社会と批判的公共性』 文眞堂
- 佐和隆光 (2003) 『日本の「構造改革」——いま、どう変えるべきか』 岩波新書
- 佐和隆光 (2010) 『グリーン産業革命——社会経済システムの改編と技術戦略』 日経BP社
- 澤佳成 (2010) 『人間学・環境学からの解剖——人間はひとりで生きてゆけるのか』 梓出版社
- 塩谷智美 (1997) 『マインド・レイブ——自己啓発セミナーの危険な素顔』 三一書房
- 篠原雅武 (2012) 『全一生活論——転形期の公共空間』 以文社
- 篠原雅武 (2015) 『生きられたニュータウン——未来空間の哲学』 青土社
- 篠原雅武 (2016) 『複数性のエコロジー——人間ならざるものの環境哲学』 以文社
- 島蘭進/竹内整一編 (2008) 『死生学とは何か (死生学1)』 東京大学出版会
- 島田裕巳監修 (2011) 『現代にっぽん新宗教百科』 柏書房
- 清水哲郎/会田薫子編 (2017) 『医療・介護のための死生学入門』 東京大学出版会
- 清水真人 (2018) 『平成デモクラシー史』 ちくま新書
- 清水正徳 (1971) 『人間疎外論』 紀伊國屋新書
- 下斗米伸夫/北岡伸一 (1999) 『新世紀の世界と日本 (世界の歴史30)』 中央公論新社

- 下村治 (2009) [1962] 『日本経済成長論』中公クラシックス
- 神野直彦／澤井安勇編 (2004) 『ソーシャル・ガバナンス——新しい分権・市民社会の構図』東洋経済新報社
- 末木文美士 (2010) [1992] 『日本仏教史——思想史としてのアプローチ』新潮文庫
- 菅原潤 (2018) 『京都学派』講談社現代新書
- 菅原教夫 (1994) 『現代アートとは何か』丸善ライブラリー
- 杉田敦 (1998) 『権力の系譜学——フーコー以後の政治理論に向けて』岩波書店
- 杉原弘恭 (1994) 『日本のコモンズ『入会』』『社会的共通資本——コモンズと都市』宇沢弘文／茂木愛一郎編、東京大学出版会、101-126頁
- 鈴木貞美 (2013) 『入門 日本近現代文芸史』平凡社新書
- 鈴木龍也／富野暉一郎編 (2006) 『コモンズ論再考』晃洋書房
- 鈴木敏正 (2000) 『主体形成の教育学』御茶の水書房
- 芹沢俊介 (1989) 『現代〈子ども〉暴力論』大和書房
- 総合人間学会編 (2007) 『人間はどこに行くのか (総合人間学1)』学文社
- 総合人間学会編 (2015) 『〈居場所〉の喪失、これからの〈居場所〉——成長・競争社会とその先へ (総合人間学9)』学文社
- 総合人間学会 (2018) 『総合人間学会 第13回研究大会要旨集』

## た

- 高野悦子 (2003) [1971] 『二十歳の原点』新潮文庫
- 高橋歩 (2001) [1997] 『毎日が冒険 (新装版)』サンクチュアリ出版
- 高橋徳 (2014) 『人は愛することで健康になれる——愛のホルモン・オキシトシン』市谷敏訳、知道出版
- 竹井隆人 (2005) 『集合住宅デモクラシー——新たなコミュニティ・ガバナンスのかたち』世界思想社
- 竹井隆人 (2007) 『集合住宅と日本人——新たな「共同性」を求めて』平凡社
- 竹田青嗣 (2009) 『人間の未来——ヘーゲル哲学と現代資本主義』ちくま新書
- 竹村牧男 (1992) 『唯識の探究——『唯識三十頌』を読む』春秋社
- 竹村牧男 (2009) 『入門——哲学としての仏教』講談社現代新書
- 竹村牧男 (2016) 『ブッディスト・エコロジー——共生・環境・いのちの思想』ノンブル社
- 竹村牧男／中川光弘編 (2010) 『サステイナビリティとエコ・フィロソフィ——西洋と東洋の対話から』ノンブル社

- 竹村牧男／中川光弘監修／岩崎大／関陽子／増田敬祐編著 (2015) 『自然といのちの尊さについて考える』 ノンブル社
- 田尻祐一郎 (2011) 『江戸の思想史——人物・方法・連環』 中央新書
- 立川武蔵 (2003) 『空の思想史——原始仏教から日本近代へ』 講談社学術文庫
- 橘木俊詔 (2011) 『無縁社会の正体——地縁・血縁・社縁はいかに崩壊したか』 PHP研究所
- 立川昭二 (2018) [1998] 『日本人の死生観』 ちくま学芸文庫
- 田中角栄 (1972) 『日本列島改造論』 日刊工業新聞社
- 田中二郎編 (2001) 『カラハリ狩猟採集民——過去と現在』 京都大学学術出版会
- 田中康夫 (1985) [1981] 『なんとなく、クリスタル』 新潮文庫
- 谷川雁／吉本隆明ほか (2010) 『民主主義の神話——安保闘争の思想的総括』 現代思潮新社
- 谷川健一 (1999) 『日本の神々』 岩波新書
- 谷川稔／北原敦／鈴木健夫／村岡健次 (1999) 『近代ヨーロッパの情熱と苦悩 (世界の歴史22)』 中央公論社
- 谷直樹 (2005) 『町に住まう知恵——上方三都のライフスタイル』 平凡社
- 田畑稔 (1994) 『マルクスとアソシエーション——マルクス再読の試み』 新泉社
- 田畑稔／大藪龍介／白川真澄／松田博編 (2003) 『アソシエーション革命へ——理論・構想・実践』 社会評論社
- 多辺田政弘 (1990) 『コモنزの経済学』 学陽書房
- 玉野井芳郎 (1978) 『エコノミーとエコロジー——広義の経済学への道』 みすず書房
- 玉野井芳郎 (1982) 『生命系のエコノミー——経済学・物理学・哲学への問いかけ』 新評論
- 玉野井芳郎／坂本慶一／中村尚司編 (1984) 『いのちと“農”の論理——都市化と産業化を超えて』 学陽書房
- 玉野井芳郎／清成忠男／中村尚司編 (1978) 『地域主義——新しい思潮への理論と実践の試み』 学陽書房
- 田村栄太郎 (1994) 『江戸時代——町人の生活』 雄山閣出版
- 千葉雅也 (2013) 『動きすぎではいけない——ジル・ドゥルーズと生成変化の哲学』 河出書房新社
- 千葉雅也 (2017) 『勉強の哲学——来たるべきバカのために』 文藝春秋
- 中央教育審議会 (1996) 「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について (第一次答申)」

- 柘植あづみ (2012) 『生殖技術——不妊治療と再生医療は社会に何をもたらすか』 みすず書房
- 辻信一 (2004) [2001] 『スロー・イズ・ビューティフル——遅さとしての文化』 平凡社
- 辻惟雄監修 (2003) [1991] 『日本美術史 (増補新装)』 美術出版社
- 津田左右吉 (2018) 『古事記及び日本書紀の研究』 毎日ワンス
- 筒井清忠 (2006) [1996] 『二・二六事件とその時代——昭和期日本の構造』 ちくま学芸文庫
- 筒井淳也 (2016) 『結婚と家族のこれから——共働き社会の限界』 光文社新書
- 暉峻淑子 (1989) 『豊かさとは何か』 岩波新書
- 土井隆義 (2004) 『「個性」を煽られる子どもたち——親密圏の変容を考える』 岩波ブックレット
- 土井隆義 (2008) 『友だち地獄——「空気を読む」世代のサバイバル』 ちくま新書
- 土井隆義 (2009) 『キャラ化する／される子どもたち——排除型社会における新たな人間像』 岩波ブックレット
- 土居健郎 (1971) 『「甘え」の構造』 弘文堂
- 土井淑平 (1997) 『都市論』 三一書房
- 東京唯物論研究会編 (1986) 『戦後思想の再検討——人間と文化篇』 白石書店
- 東大全共闘経済大学院闘争委員会 (1969) 『炎で描く変革の論理——東大全共闘の心情と行動と』 自由国民社
- 戸田清 (1994) 『環境的公正を求めて』 新曜社
- 戸田清 (2003) 『環境学と平和学』 新泉社
- 富田嘉郎 (1981) 『人間疎外』 ミネルヴァ書房
- 鳥越皓之 (1993) [1985] 『家と村の社会学 (増補版)』 世界思想社

## な

- 内藤淳 (2007) 『自然主義の人権論——人間の本性に基づく規範』 勁草書房
- 永井彰／日暮雅夫編 (2003) 『批判的社会理論の現在』 晃洋書房
- 中沢新一 (1983) 『チベットのモーツァルト』 せりか書房
- 中沢卓実／結城康博編 (2012) 『孤独死を防ぐ——支援の実際と政策の動向』 ミネルヴァ書房
- 中島梓 (1995) [1991] 『コミュニケーション不全症候群』 ちくま文庫
- 中島秀朗 (2018) 『ロボット——それは人類の敵か、味方か』 ダイアモンド社
- 中島岳志 (2011) 『秋葉原事件——加藤智大の軌跡』 朝日新聞出版

- 中島義道 (2015) [2002] 『不幸論』 PHP文庫
- 中根千枝 (1967) 『タテ社会の人間関係——単一社会の理論』 講談社現代新書
- 永原慶二 (1980) 『日本経済史』 岩波全書
- 仲正昌樹 (2006) 『日本の現代思想——ポストモダンとは何だったのか』 NHKブックス
- 仲正昌樹 (2017) [2002] 『ポストモダンの左旋回 (増補新版)』 NHKブックス
- 中村元訳 (1978) 『ブッダの真理のことば 感興のことば』 岩波文庫
- 中村元訳 (1984) 『ブッダのことば——スッタニパータ』 岩波文庫
- 中村元 (1987) [1987] 『原始仏典』 ちくま学芸文庫
- 中村尚司 (1998) [1993] 『地域自立の経済学 (第2版)』 日本評論社
- 中村尚司 (2002) [1975] 『共同体の経済構造——労働の蓄積と交換 (増補版)』 新評論
- 中村尚司／鶴見良行編 (1995) 『コモズの海——交流の道、共有の力』 学陽書房
- 中山康雄 (2004) 『共同性の現代哲学——心から社会へ』 勁草書房
- 夏目漱石 (2014) 『社会と自分——漱石自選講演集』 ちくま学芸文庫
- 南条あや (2004) [2000] 『卒業式まで死にません——女子高生南条あやの日記』 新潮文庫
- 西川富雄 (2002) 『環境哲学への招待——生きている自然を哲学する』 こぶし書房
- 西田幾多郎 (1979) 『善の研究』 岩波文庫
- 西部邁 (2013) [1999] 『虚無の構造』 中公文庫
- 西村豁通／中西洋／竹中恵美子編 (1996) 『個人と共同体の社会科学——近代における社会と人間』 ミネルヴァ書房
- 似田貝香門 (1984) 『社会と疎外』 世界書院
- 日刊工業新聞特別取材班編 『樋口レポート——経済戦略会議報告』 日刊工業新聞社
- 日本聖書協会／共同訳聖書実行委員会 (2006) 『聖書 (スタディ版)』 日本聖書協会
- 日本村落史研究講座編集委員会 (1990) 『生活二——近世 (日本村落史講座7)』 雄山閣
- 日本ホリスティック教育協会／中川吉晴／金田卓也編 (2003) 『ホリスティック教育ガイドブック』 せせらぎ出版
- にらさわあきこ (2016) 『未婚当然時代——シングルたちの“絆”のゆくえ』 ポプラ新書
- 根井浄 (2008) 『観音浄土に船出した人々——熊野と補陀落渡海』 吉川弘文館
- 野家啓一 (2005) [1996] 『物語の哲学』 岩波現代文庫
- 野田恵 (2012) 『自然体験論——農山村における自然学校の理論』 みくに出版
- 信田さよ子 (2008) 『母が重くてたまらない——墓守娘の嘆き』 春秋社

## は

- 長谷川雄一／金子芳樹編 (2019) [1998] 『現代の国際政治 (第4版) ——変容するグローバル化と新たなパワーの台頭』 ミネルヴァ書房
- 服部茂幸 (2013) 『新自由主義の帰結——なぜ世界経済は停滞するのか』 岩波新書
- 花田達朗 (1996) 『公共圏という名の社会空間——公共圏、メディア、市民社会』 木鐸社
- 埴原和郎 (2000) 『人類の進化 試練と淘汰の道のり——未来へつなぐ500万年の歴史』 講談社
- 浜口恵俊 (1982) 『間人主義の社会 日本』 東洋経済新報社
- 濱口恵俊／公文俊平編 (1982) 『日本の集団主義——その真価を問う』 有斐閣選書
- 林房雄 (2006) [1964] 『大東亜戦争肯定論 (普及版)』 夏目書房
- 速水建朗 (2008) 『自分探しが止まらない』 ソフトバンク新書
- 原田泰 (2015) 『ベーシック・インカム——国家は貧困問題を解決できるか』 中公新書
- 原彬久 (2000) 『戦後史のなかの日本社会党——その理想主義とは何であったのか』 中公新書
- ばるぼら (2005) 『教科書には載らないニッポンのインターネットの歴史教科書』 翔泳社
- ばるぼら／さやわか (2017) 『僕たちのインターネット史』 亜紀書房
- 日暮吉延 (2008) 『東京裁判』 講談社現代新書
- 平子友長 (1991) 『社会主義と現代世界』 青木書店
- 平田清明 (1969) 『市民社会と社会主義』 岩波書店
- 広井良典 (2001) 『死生観を問いなおす』 ちくま新書
- 広井良典 (2006) 『持続可能な福祉社会——「もうひとつの日本」の構想』 ちくま新書
- 広井良典 (2009) 『コミュニティを問いなおす——つながり・都市・日本社会の未来』 ちくま新書
- 広井良典 (2013) 『人口減少社会という希望——コミュニティ経済の生成と地球倫理』 朝日新聞出版
- 廣松渉 (1989) [1980] 『〈近代の超克〉論——昭和思想史への一視覚』
- 廣松渉 (2001) [1993] 『物象化論の構図』、岩波書店
- 廣松渉 (2010) 『役割理論の再構築のために』 岩波書店
- 福沢諭吉 (1942) 『学問のすゝめ』 岩波文庫
- 福沢諭吉／松沢弘陽校注 (1995) 『文明論之概略』 岩波文庫
- 福永真弓 (2010) 『多声性の環境倫理——サケが生まれ帰る流域の正当性のゆくえ』 ハーベスト社
- 降旗信一／高橋正弘編著／阿部治／朝岡幸彦監修 (2009) 『現代環境教育入門 (持続可能

- な社会のための環境教育シリーズ1)』筑波書房
- 古市憲寿 (2011) 『絶望の国の幸福な若者たち』講談社
- 古荘純一 (2007) 『不安に潰される子どもたち——何が追いつめるのか』光文社新書
- 古荘純一 (2009) 『日本の子どもの自尊感情はなぜ低いのか——児童精神科医の現場報告』光文社新書
- ベンダサン・I / 山本七平訳 (1975) [1972] 『日本教について』文春文庫
- 保阪正康 (2009) [1974] 『五・一五事件——橘孝三郎と愛郷塾の軌跡』中公文庫
- 星川淳 (2005) 『魂の民主主義——北米先住民・アメリカ建国・日本国憲法』築地書館
- 干川剛史 (2001) 『公共圏の社会学——デジタル・ネットワークキングによる公共圏構築に向けて』法律文化社
- 細谷雄一 (2012) 『国際秩序——18世紀ヨーロッパから21世紀アジアへ』中公新書
- 堀越久甫 (1979) 『村の中で村を考える』NHKブックス
- 堀越久甫 (1983) 『むらの役員心得帳——日本的和の論理の実際』農文協

## ま

- 前島賢 (2010) 『セカイ系とは何か——ポスト・エヴァのオタク史』ソフトバンク新書
- 増田敬祐 (2009) 「ペルソナ的人格モデルにみる人間存在の在り方」『共生社会システム研究』第3巻、第1号、131-149頁
- 増田敬祐 (2011) 「地域と市民社会——「市民」は地域再生の担い手たりうるか？」『唯物論研究年誌』唯物論研究協会、第16号、301-325頁
- 増田敬祐 (2015) 「生命と倫理の基盤——自然といのちを涵養する環境の倫理」竹村牧男 / 中川光弘監修 / 岩崎大 / 関陽子 / 増田敬祐編著『自然といのちの尊さについて考える』ノンブル社、157-202頁
- 増田敬祐 (2016) 「時代に居合わせる人間と思想——〈存在の価値理念〉についての人間学的考察」『現代人間学・人間存在論研究』大阪府立大学環境哲学・人間学研究所、第1号、93-157頁
- 増田敬祐 (2017) 「環境と存在——人間の学としての人間存在論のための試論」『現代人間学・人間存在論研究』大阪府立大学環境哲学・人間学研究所、第2号、177-324頁
- 増田敬祐 (2020a) 「風土論の変遷と環境の時代——人間が存在することの環境倫理的問いとは何か」『風土的環境倫理と現代社会——〈環境〉を生きる人間存在のあり方を問う』亀山純生監修 / 増田敬祐編集、農林統計出版、103-146頁
- 増田敬祐 (2020b) 「存在の耐えきれない重さ——環境における他律の危機について」『現代人間学・人間存在論研究』大阪府立大学環境哲学・人間学研究所、第4号、313-

378頁

- 松尾豊 (2015) 『人工知能は人間を超えるか——ディープラーニングの先にあるもの』角川EPUB選書
- 松田純 (2018) 『安楽死・尊厳死の現在——最終段階の医療と自己決定』中公新書
- 松田雄馬 (2017) 『人工知能の哲学——生命から紐解く知能の謎』東海大学出版部
- 松野弘 (2009) 『環境思想とは何か——環境主義からエコロジズムへ』ちくま新書
- 松本健一 (1998) 『開国・維新 (日本の近代1)』中央公論新社
- 松本三之介 (2012) [1981] 『明治精神の構造』岩波現代文庫
- 間庭充幸 (1990) 『日本的集団の社会学——包摂と排斥の構造』河出書房新社
- 丸山眞男 (1952) 『日本政治思想史研究』東京大学出版会
- 丸山眞男 (1961) 『日本の思想』岩波新書
- 丸山眞男 (1964) 『現代政治の思想と行動 [増補版]』未來社
- 丸山眞男 (1996) 『丸山眞男集 (第10巻)』岩波書店
- 丸山正次 (2006) 『環境政治理論——政治理論のパラダイム転換』風行社
- 三浦展 (2004) 『ファスト風土化する日本——郊外化とその病理』洋泉社
- 三浦展 (2005) 『下流社会——新たな階層集団の出現』光文社新書
- 三浦永光 (2007) 『環境思想と社会——思想的アプローチ』御茶の水書房
- 御厨貴 (2001) 『明治国家の完成 (日本の近代3)』中央公論新社
- 三島由紀夫 (2006) [1969] 『文化防衛論』ちくま文庫
- 三島由紀夫／東大全共闘 (2000) [1969] 『美と共同体と東大闘争——【討論】三島由紀夫VS東大全共闘』角川文庫
- 水野弘元 (2006) [1972] 『仏教用語の基礎知識 (新版)』春秋社
- 見田宗介 (1995) 『現代日本の感覚と思想』講談社学術文庫
- 見田宗介 (1996) 『現代社会の理論——情報化・消費化社会の現在と未来』岩波新書
- 宮川公男／大守隆編 (2004) 『ソーシャル・キャピタル——現代経済社会のガバナンスの基礎』東洋経済新報社
- 三宅陽一郎 (2016) 『人工知能のための哲学塾』ビー・エヌ・エヌ新社
- 宮台真司 (1997) 『透明な存在の不透明な悪意』春秋社
- 宮台真司 (1998) [1995] 『終わりなき日常を生きろ——オウム完全克服マニュアル』ちくま文庫
- 宮台真司 (2000) [1997] 『まぼろしの郊外——成熟社会を生きる若者たちの行方』朝日文庫
- 宮台真司 (2006) [1994] 『制服少女たちの選択——After 10 years』朝日文庫

- 宮本常一（1984）[1960]『忘れられた日本人』岩波文庫
- 三和良一（2002）[1993]『概説 日本経済史——近現代（第2版）』東京大学出版会
- 武藤盈／須藤功（2003）『写真で綴る昭和30年代農山村の暮らし——高度成長以前の日本の原風景』農文協
- 村上陽一郎（1986）『近代科学を超えて』講談社学術文庫
- 村田浩一／成島悦雄／原久美子編（2014）『動物園学入門』朝倉書店
- 村田純一（2009）『技術の哲学』岩波書店
- 室田武（2001）『物質循環のエコロジー』晃洋書房
- 室田武／多辺田政弘／榎田敦編（1995）『循環の経済学——持続可能な社会の条件』学陽書房
- 元田厚生（2007）『個人主義と共同体主義の両面的乗り越え——マルクス説の整序と補正の試み』梓出版社
- 森岡正博（1988）『生命学への招待——バイオエシックスを超えて』勁草書房
- 森岡正博（1994）『生命観を問いなおす——エコロジーから脳死まで』ちくま新書
- 森岡正博（1996）『宗教なき時代を生きるために』法蔵館
- 森岡正博（2003）『無痛文明論』トランスビュー
- 森達也（2002）『A——マスコミが報道しなかったオウムの素顔』角川文庫
- 森田洋司（2010）『いじめとは何か——教室の問題、社会の問題』中公新書
- 諸富祥彦（2009）『自己成長の心理学——人間性／トランスパーソナル心理学入門』コスモス・ライブラリー

## や

- 矢島新子（2017）『ハイスベック女子の憂鬱』洋泉社
- 安田喜憲（1995）『森と文明の物語——環境考古学は語る』ちくま新書
- 安田喜憲／菅原聡編（1996）『森と文明（文明と環境9）』朝倉書店
- 柳田国男（1976）『遠野物語・山の人生』岩波文庫
- 柳父章（1982）『翻訳語成立事情』岩波新書
- 山岸俊男（1998）『信頼の構造——こころと社会の進化ゲーム』東京大学出版会
- 山極寿一（2007）『暴力はどこからきたか——人間性の起源を探る』NHKブックス
- 山口覚（2016）『集団就職とは何であったか——〈金の卵〉の時空間』ミネルヴァ書房
- 山口定（2004）『市民社会論——歴史的遺産と新展開』有斐閣
- 山口定／佐藤春吉／中島茂樹／小関素明編（2003）『新しい公共性——そのフロンティア』有斐閣

- 山竹伸二 (2006) 『『本当の自分』の現象学』NHKブックス
- 山竹伸二 (2011) 『『認められたい』の正体——承認不安の時代』講談社現代新書
- 山田寛 (2004) 『ボル・ポト〈革命史〉——虐殺と破壊の4年間』講談社選書メチエ
- 山田昌弘 (1994) 『近代家族のゆくえ——家族と愛情のパラドックス』新曜社
- 山田昌弘 (2005) 『迷走する家族——戦後家族モデルの形成と解体』有斐閣
- 山田昌弘 (2014) 『『家族』難民——生涯未婚率25%社会の衝撃』朝日新聞出版
- 山本七平 (1983) [1977] 『『空気』の研究』文春文庫
- 山脇直司 (2004) 『公共哲学とは何か』ちくま新書
- 湯浅赳男 (1993) 『環境と文明——環境経済論への道』新評論
- 湯浅赳男 (1999) 『文明の人口史——人類と環境との衝突、一万年史』新評論
- 湯浅赳男 (2000) 『コミュニティと文明——自発性・共同知・共同性の統合の論理』新評論
- 湯浅誠 (2008) 『反貧困——「すべり台社会」からの脱出』岩波新書
- 油井大三郎／古田元夫 (1998) 『第二次世界大戦から米ソ対立へ (世界の歴史28)』中央公論新社
- 湯沢雍彦／奥田都子／中原順子／佐藤裕紀子 (2006) 『百年前の家庭生活』クレス出版
- 吉田敦彦 (1999) 『ホリスティック教育論——日本の動向と思想の地平』日本評論社
- 吉田敦彦 (2007) 『プーバー対話論とホリスティック教育——他者・呼びかけ・応答』勁草書房
- 吉田敦彦 (2009) 『世界のホリスティック教育——もうひとつの持続可能な未来へ』日本評論社
- 吉田和男 (1996) 『解明 日本型経営システム——日本経済を分析する新しい経済学への挑戦』東洋経済新報社
- 吉田健彦 (2012) 「情報思想からみた地球環境問題への応答責任——コミュニケーション、苦痛、そして他者性の視点から」『環境哲学のラディカリズム』尾関周二／武田一博編、学文社、181-201頁
- 吉田健彦 (2014) 「環境化する現代情報技術と現実の変容——現実／仮想の二元論的情報観を超えて」『総合人間学 (電子ジャーナル版)』、第8号、197-211頁
- 吉田健彦 (2016) 「すべてが技術化するこの世界で他者はなお畏怖され得るのか——現代情報・技術社会の病理と救済について」『現代人間学・人間存在論研究』大阪府立大学環境哲学・人間学研究所、第1号、159-204頁
- 吉田健彦 (2017) 「粘土板から石英ストレージへ——無限と永遠を問い得る場についての存在論的／メディア論的分析」『現代人間学・人間存在論研究』大阪府立大学環境哲

学・人間学研究所、第2号、325-423頁

吉田健彦 (2018) 「この私を繋ぎとめるものは誰か——存在論的ノイズによる原初的共同性の基礎づけ」『現代人間学・人間存在論研究』大阪府立大学環境哲学・人間学研究所、第3号、217-323頁

吉田健彦 (2020) 「波打ち際の大聖堂——計算に引き寄せられる世界のメディア論」『現代人間学・人間存在論研究』大阪府立大学環境哲学・人間学研究所、第4号、379-443頁

吉田健彦 (2021) 『メディアーム——ポストヒューマンのメディア論』共和国

吉永明弘 (2014) 『都市の環境倫理——持続可能性、都市における自然、アメニティ』勁草書房

吉永明弘／福永真弓編 (2018) 『未来の環境倫理学』勁草書房

吉本隆明 (1982) [1968] 『共同幻想論〔改訂新版〕』角川文庫

吉本隆明 (2001) 『柳田国男論・丸山真男論』筑摩書房

米地実 (1977) 『村落祭祀と国家統制』お茶の水書房

米山俊直 (1967) 『日本のむらの百年——その文化人類学的素描』NHKブックス

## わ

若林幹夫 (2007) 『郊外の社会学——現代を生きる形』ちくま新書

渡邊昭夫 (2000) 『大国日本の揺らぎ (日本の近代8)』中央公論新社

渡辺正雄 (1987) 『科学者とキリスト教——ガリレイから現代まで』講談社ブルーバック  
ス

和辻哲郎 (1979) [1935] 『風土——人間学的考察』岩波文庫

和辻哲郎 (2007) [1934] 『人間の学としての倫理学』岩波文庫

## 〈外国語文献 (翻訳文献)〉

ATTAC編 (2001) 『反グローバリゼーション民衆運動——アタックの挑戦』杉村昌昭  
訳、つげ書房新社 (L'Association ATTAC, *Tout sur ATTAC*, Editions Mille et une  
nuits, 2001)

アリストテレス (1961) 『政治学』山本光雄訳、岩波文庫 (W. D. Ross, *Aristotelis: Politica*,  
Oxford University Press, 1957)

アリストテレス (1971) 『ニコマコス倫理学 (上/下)』高田三郎訳、岩波文庫 (I. Bywater,  
*Aristotelis: Ethica Nicomachea*, Oxford University Press, 1894)

アリストテレス (1974) 「靈魂論」『世界の大思想20』村治能就訳、河出書房新社 (W. D.

- Ross, *Aristotelis: De Anima*, Oxford University Press, 1956)
- H・アレント (1972a) 『全体主義の起原 (1) ——反ユダヤ主義』 大久保和郎訳、みすず書房 (H. Arendt, *The Origins of Totalitarianism*, Harcourt, Brace & World, 1966)
- H・アレント (1972b) 『全体主義の起原 (2) ——帝国主義』 大島道義／大島かおり訳、みすず書房 (H. Arendt, *The Origins of Totalitarianism*, Harcourt, Brace & World, 1966)
- H・アレント (1974) 『全体主義の起原 (3) ——全体主義』 大島道義／大島かおり訳、みすず書房 (H. Arendt, *The Origins of Totalitarianism*, Harcourt, Brace & World, 1966)
- H・アレント (1994) 『人間の条件』 志水速雄訳、ちくま学芸文庫 (H. Arendt, *The Human Condition*, University of Chicago Press, 1958)
- B・アンダーソン (1987) 『想像の共同体——ナショナリズムの起源と流行』 白石隆／白石さや訳、リプロポート (B. Anderson, *Imagined Communities: Reflections on the Origin and Spread of Nationalism*, Verso, 1983)
- E・アンテス (2016) 『サイボーグ化する動物たち——ペットのクローンから昆虫のクローンまで』 西田美緒子訳、白揚社 (E. Anthes, *Frankenstein's Cat: Cuddling up Biotech's Brave New Beasts*, Scientific American, 2013)
- I・イリイチ (1990) 『シャドウ・ワーク——生活のあり方を問う』 玉野井芳郎／栗原彬訳、岩波書店 (I. Illich, *Shadow Work*, Marion Boyars, 1981)
- I・イリッチ (1977) 『脱学校の社会』 東洋／小澤周三訳、東京創元社 (I. Illich, *The Deschooling Society*, Harper & Row, 1970)
- E・O・ウィルソン (1999) 『社会生物学 (合本版)』 伊藤嘉昭／坂上昭一／粕谷英一ほか訳、新思索社 (E. O. Wilson, *Sociobiology: The New Synthesis*, Harvard University Press, 1975)
- K・ウィルバー (1986) 『無境界——自己成長のセラピー論』 吉福伸逸訳、平河出版社 (K. Wilber, *No Boundary: Eastern and Western Approaches to Personal Growth*, Shambhala, 1979)
- K・ウィルバー (2002) 『万物の理論——ビジネス・政治・科学からスピリチュアリティまで』 岡野守也訳、トランスビュー (K. Wilber, *A Theory of Everything: An Integral Vision for Business, Politics, Science, and Spirituality*, Shambhala, 2000)
- M・ウェーバー (1960) 『支配の社会学 I』 世良晃志郎訳、創文社 (M. Weber, *Wirtschaft und Gesellschaft: Grundriss der verstehenden Soziologie*. 5., rev. Aufl., Mohr, 1972)
- M・ウェーバー (1964) 『都市の類型学』 世良晃志郎訳、創文社 (M. Weber, *Wirtschaft*

- und Gesellschaft: Grundriss der verstehenden Soziologie*. 5., rev. Aufl., Mohr, 1972)
- M・ウェーバー (1972) 『社会学の根本概念』 清水幾太郎訳、岩波文庫 (M. Weber, *Wirtschaft und Gesellschaft: Grundriss der verstehenden Soziologie*. 5., rev. Aufl., Mohr, 1972)
- M・ウェーバー (1980a) 『職業としての学問』 尾高邦男訳、岩波文庫 (M. Weber, *Max Weber Gesamtausgabe*, Bd.17, Mohr, 1992)
- M・ウェーバー (1980b) 『職業としての政治』 脇圭平訳、岩波文庫 (M. Weber, *Max Weber Gesamtausgabe*, Bd.17, Mohr, 1992)
- M・ウェーバー (1989) 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 大塚久雄訳、岩波文庫 (M. Weber, *Max Weber Gesamtausgabe*, Bd.18, Mohr, 2016)
- E・F・ヴォーゲル (1979) 『ジャパン・アズ・ナンバーワン——アメリカへの教訓』 広中和歌子／木本彰子訳、TBSブリタニカ (E. F. Vogel, *Japan as Number One: Lessons for America*, Harvard University Press, 1979)
- I・ウォーラステイン (1981) 『近代世界システム——農業資本主義と「ヨーロッパ世界経済」の成立 (I / II)』 川北稔訳、岩波現代選書 (I. Wallerstein, *The Modern World-System: Capitalist Agriculture and the Origins of the European World-Economy in the Sixteenth Century*, Academic Press, 1974)
- I・ウォーラステイン (1987a) 『資本主義世界経済 (I) ——中核と周辺の不平等』 藤瀬浩司／麻沼賢彦／金井雄一訳、名古屋大学出版会 (I. Wallerstein, *The Capitalist World=Economy*, Cambridge University Press, 1979)
- I・ウォーラステイン (1987b) 『資本主義世界経済 (II) ——階級・エスニシティの不平等、国際政治』 日南田静真訳、名古屋大学出版会 (I. Wallerstein, *The Capitalist World=Economy*, Cambridge University Press, 1979)
- I・ウォーラステイン (1997) 『史的システムとしての資本主義 (新版)』 川北稔訳、岩波書店 (I. Wallerstein, *Historical Capitalism with Capitalist Civilization*, Verso, 1995)
- P・ウォレス (2018) 『インターネットの心理学』 川浦康至／和田正人／堀正訳、NTT出版 (P. Wallace, *The Psychology of the Internet (2ed.)*, Cambridge University Press, 2016)
- P・エキンズ編 (1987) 『生命系の経済学』 石見尚／中村尚司／丸山茂樹／森田邦彦訳、お茶の水書房 (P. Ekins, *The Living Economy: By the Other Economic Summit*, Routledge, 1986)
- F・エンゲルス (1966) 『空想から科学へ』 寺沢恒信訳、大月書店 (K. Marx/F. Engels,

- Marx-Engels Werke*, Bd. 19, Dietz Verlag, 1987)
- G・オーウェル (1972) 『1984年』新庄哲夫訳、ハヤカワ文庫 (G. Orwell, *Nineteen Eighty-Four*, Secker & Warburg, 1949)
- D・オースター (1989) 『ネイチャーズ・エコノミー』中山茂／成定薫／吉田忠訳 リポート (D. Worster, *Nature's Economy: A History of Ecological Ideas*, Cambridge University Press, 1985)
- J・L・オースティン (1978) 『言語と行為』坂本百大訳、大修館書店 (J. L. Austin, *How to Do Things with Words*, Oxford University Press, 1962)
- C・オニール (2018) 『あなたを支配し、社会を破壊する、AI・ビッグデータの罠』久保尚子訳、インターシフト (C. O'Neil, *Weapons of Math Destruction*, Crown Books, 2016)
- E・H・カー (1962) 『歴史とは何か』清水幾多郎訳、岩波新書 (E. H. Carr, *What is History? : The George Macaulay Trevelyan Lectures delivered in the University of Cambridge January-March 1961*, Macmillan, 1961)
- R・カーツワイル (2007) 『ポスト・ヒューマン誕生——コンピュータが人類の知性を超えるとき』井上健監訳／小野木明恵／野中香方子／福田実共訳、NHK出版 (R. Kurzweil, *The Singularity is Near: When Humans Transcend Biology*, Viking, 2005)
- 環境と開発に関する世界委員会 (1987) 『地球の未来を守るために』大来佐武郎監訳、福武書店 (The World Commission on Environment and Development, *Our Common Future*, Oxford University Press, 1987)
- I・カント (1964) 『判断力批判 (上・下)』篠田英雄訳、岩波書店 (I. Kant, *Kritik der Urteilskraft*, Suhrkamp, 1957)
- I・カント (1966) 『論理学』『批判期論集 (全集12)』門脇卓爾訳、理想社 (I. Kant, *Immanuel Kant Werke*, Bd.9, W. de Gruyter, 1968)
- I・カント (1976) 『道徳形而上学原論』篠田英雄訳、岩波文庫 (I. Kant, *Grundlegung zur Metaphysik der Sitten*, Suhrkamp, 2007)
- J・ギース／F・ギース (2006) 『中世ヨーロッパの都市の生活』青島淑子訳、講談社学術文庫 (J. Gies/F. Gies, *Life in a Medieval City*, HarperCollins, 1982)
- J・ギース／F・ギース (2008) 『中世ヨーロッパの農村の生活』青島淑子訳、講談社学術文庫 (J. Gies/F. Gies, *Life in a Medieval Village*, HarperCollins, 1982)
- A・ギデنز (1993) 『近代とはいかなる時代か? ——モダニティの帰結』松尾精文／小幡正敏訳、而立書房 (A. Giddens, *The Consequences of Modernity*, polity Press, 1990)
- A・ギデنز (1995) 『親密性の変容——近代社会におけるセクシュアリティ、愛情、エ

- ロティシズム』松尾精文／松川昭子訳、而立書房 (A. Giddens, *The Transformation of Intimacy: Sexuality, Love and Eroticism in Modern Societies*, Polity Press, 1992)
- A・ギデンズ (1998)『社会学 (第3版)』松尾精文／藤井達也／叶堂隆三ほか訳、而立書房 (A. Giddens, *Sociology (4ed.)*, Polity Press, 2001)
- E・キューブラー＝ロス (1971)『死ぬ瞬間——死にゆく人々との対話』川口正吉訳、読売新聞社 (E. Kübler-Ross, *On Death and Dying*, Scribner, 2014)
- R・G・クライン／B・エドガー (2004)『5万年前に人類に何が起きたか?』鈴木淑美訳、新書館 (R. G. Klein/B. Edgar, *The Dawn of Human Culture*, John Wiley & Sons, 2002)
- N・クルデル／R・バーンスタイン／K・イングラム／K・M・ハート (2018)『バイオビルダー——合成生物学をはじめよう』津田和俊監訳／片野晃輔／西原由実／濱田格雄訳、オライリー・ジャパン (N. Kuldell/R. Bernstein/K. Ingram/K. M. Hart, *Bio Builder: Synthetic Biology in the Lab*, O'Reilly Media, 2015)
- P・ケネディ (1988)『大国の興亡——1500年から2000年までの経済の変遷と軍事闘争 (上/下)』鈴木主税訳、草思社 (P. Kennedy, *The Rise and Fall of the Great Powers: Economic Change and Military Conflict from 1500 to 2000*, Random House, 1987)
- D・コイル (2015)『GDP——小さくて大きな数字の歴史』高橋璃子訳、みすず書房 (D. Coyle, *GDP: A Brief but Affectionate History*, Princeton University Press, 2014)
- P・ゴーギャン (1999)『ノアノア』岩切正一郎訳、ちくま学芸文庫 (P. Gauguin, *Noa Noa*, Jean-Jacques Pauvert et compagnie, 1988)
- A・コジェーヴ (1987)『ヘーゲル読解入門——「精神現象学」を読む』上妻精／今野雅方訳、国文社 (A. Kojève, *Introduction à la lecture de Hegel*, Gallimard, 1968)
- E・ゴッフマン (1980)『集まりの構造——新しい日常行動論を求めて』丸木恵祐／本名信行訳、誠信書房 (E. Goffman, *Behavior in Public Places: Notes on the Social Organization of Gatherings*, The Free Press, 1963)
- E・ゴッフマン (1985)『出会い——相互行為の社会学』佐藤毅／折橋徹彦訳、誠信書房 (E. Goffman, *Encounters: Two Studies in the Sociology of Interaction*, Bobbs-Merrill, 1961)
- J＝P・サルトル (1974)「存在と無 (抄)」『存在と無・唯物論と革命・方法の問題 (世界の大思想18)』松浪信三郎／矢内原伊作／多田道太郎／平井啓之訳、河出書房新社 (J.-P. Sartre, *L' être et le néant: essai d'ontologie phénoménologique*, Gallimard, 1943)
- J＝P・サルトル (1996)『実存主義とは何か (増補新装版)』伊吹武彦／海老坂武／石崎晴己訳、人文書院 (J.-P. Sartre, *L' Existentialisme est un humanism*, Gallimard, 1996)

- M・J・サンデル (2009) 『リベラリズムと正義の限界』 菊池理夫訳、勁草書房 (M. J. Sandel, *Liberalism and the Limits of Justice (2ed.)*, Cambridge University Press, 1998)
- M・シェラー (2012) 『宇宙における人間の地位』 亀井裕／山本達訳、白水社 (M. Scheler, *Die Stellung des Menschen im Kosmos*, Hofenberg, 2016)
- A・シュツ (1980) 『現象学的社会学』 森川真規雄／浜日出夫訳、紀伊國屋書店 (A. Schütz, *On Phenomenology and Social Relations*, The University of Chicago Press, 1970)
- A・シュツ (2006) 『社会的世界の意味構成——理解社会学入門 (改訂版)』 佐藤嘉一訳、木鐸社 (A. Schütz, *Der sinnhafte Aufbau der sozialen Welt: Eine Einleitung in die verstehende Soziologie*, Springer, 1932)
- N・ジョージエスケ＝レーゲン (1981) 『経済学の神話——エネルギー・資源・環境に関する真実』 小出厚之助／室田武／鹿島信吾訳、東洋経済新報社
- P・ジンバルドー／N・D・クーロン (2017) 『男子劣化社会』 高月園子訳、晶文社 (P. Zimbardo／N. D. Coulombe, *Man (Dis) connected: How Technology Has Sabotaged What it Means to be Male*, Rider, 2015)
- R・ストーム (1993) 『ニューエイジの歴史と現在——地上の楽園を求めて』 高橋巖／小杉英了訳、角川選書 (R. Storm, *In Search of Heaven on Earth*, Bloomsbury, 1991)
- A・D・スミス (1998) 『ナショナリズムの生命力』 高柳先男訳、晶文社 (A. D. Smith, *National Identity*, University of Nevada Press, 1991)
- A・スミス (2020) 『国富論 (1/2/3)』 大河内一男監訳、中公文庫 (A. Smith, *An inquiry into the nature and causes of the wealth of nations*, Oxford University Press, 1976)
- U・セーゲルストローレ (2005) 『社会生物学論争史——誰もが真理を擁護していた (1/2)』 垂水雄二訳、みすず書房 (U. Segerstråle, *Defenders of the Truth: The battle for Science in the Sociobiology Debate and Beyond*, Oxford University Press, 2000)
- J・ダイヤモンド (2000) 『銃・病原菌・鉄——1万3000年にわたる人類史の謎 (上/下)』 倉骨彰訳、草思社 (J. Diamond, *Guns, Germs, and Steel: The Fates of Human Societies*, W. W. Norton & Company, 1997)
- J・ダイヤモンド (2005) 『文明崩壊——滅亡と存続の運命を分けるもの (上/下)』 榎井浩一訳、草思社 (J. Diamond, *Collapse: How Societies Choose to Fail or Succeed*, Viking, 2004)
- J・ダウドナ／S・スターンバーグ (2017) 『クリスパー——究極の遺伝子編集技術の発見』 櫻井祐子訳、文藝春秋 (A. Doudna／S. H. Sternberg, *A Crack in Creation: Gene*

- Editing and the Unthinkable Power to Control Evolution*, Houghton Mifflin Harcourt, 2017)
- P・ダスクプタ (2007) 『サステイナビリティの経済学——人間の福祉と自然環境』 植田和弘監訳、岩波書店 (P. Dasgupta, *Human Well-Being and the Natural Environment*, Oxford University Press, 2001)
- A・C・ダントー (2018) 『アートとは何か——芸術の存在論と目的論』 佐藤一進訳、人文書院 (A. C. Danto, *What Art Is*, Yale University Press, 2013)
- R・ダンバー (1998) 『ことばの起源』 松浦俊輔／服部清美訳、青土社 (R. Dunbar, *Grooming, Gossip and the Evolution of Language*, Faber & Faber, 1996)
- L・デイヴィッド (2016) 『マーズ——火星移住計画』 日経ナショナルジオグラフィック社 (L. David, *Mars: Our Future on the Red Planet*, National Geographic, 2016)
- N・B・デイビス／J・R・クレブス／S・A・ウェスト (2015) 『行動生態学 (原著第4版)』 野間口眞太郎／山岸哲／巖佐庸訳、共立出版 (N. B. Davies／J. R. Krebs／S. A. West, *An Introduction to Behavioral Ecology (4ed.)*, Wiley-Blackwell, 2012)
- C・テイラー (2011) 『近代——想像された社会の系譜』 上野成利訳、岩波書店 (C. Taylor, *Modern Social Imaginaries*, Duke University Press, 2003)
- H・E・デイリー (2005) 『持続可能な発展の経済学』 新田功／蔵木忍／大森正之共訳、みすず書房 (H. E. Daly, *Beyond Growth: The Economics of Sustainable Development*, Beacon Press, 1996)
- H・デイリー／J・ファーレイ (2014) 『エコロジー経済学——原理と応用』 佐藤正弘訳、NTT出版 (H. Daly／J. Farley, *Ecological Economics: Principles and Applications (2ed.)*, Island Press, 2011)
- R・デカルト (2006) 『省察』 山田弘明訳、岩波文庫 (R. Descartes, *Meditationes de prima philosophia*, Vrin, 1964)
- J・デ＝ジャルダン (2005) 『環境倫理学——環境哲学入門』 新田功／生方卓／蔵木忍／大森正之訳、人間の科学社 (J. Des Jardins, *An Introduction to Environmental Philosophy (3ed.)*, Wadsworth, 2001)
- D・デフォー (2010) 『ロビンソン・クルーソー』 増田義郎訳、中公文庫 (D. Defoe, *The Life and Most Surprising Adventures of Robinson Crusoe, of York, Mariner*, Forgotten Books, 2012)
- E・デュルケム (1975) 『宗教生活の原初形態 (上／下)』 古野清人訳、岩波文庫 (É. Durkheim, *Les formes élémentaires de la vie religieuse: le système totémique en Australie*, Presses universitaires de France, 1968)

- E・デュルケム (1985) 『自殺論』 宮島喬訳、中央公論社 (É. Durkheim, *Le Suicide: étude de sociologie*, Presses universitaires de France, 1960)
- E・デュルケム (1989) 『社会分業論 (上/下)』 井伊玄太郎訳、講談社学術文庫 (É. Durkheim, *De la division du travail social*, Presses universitaires de France, 1967)
- F・テンニエス (1957) 『ゲマインシャフトとゲゼルシャフト——純粹社会学の基本概念 (上/下)』 杉之原寿一訳、岩波文庫 (F. Tönnies, *Gemeinschaft und Gesellschaft: Grundbegriffe der reinen Soziologie*, Wissenschaftliche Buchgesellschaft, 1963)
- F・ドゥ＝ヴァール (2017) 『動物の賢さがわかるほど人間は賢いのか』 松沢哲郎監訳／柴田裕之訳、紀伊國屋書店 (F. de Waal, *Are We Smart Enough to Know How Smart Animals Are?*, W. W. Norton & Company, 2016)
- G・ドゥルーズ／F・ガタリ (1986) 『アンチ・オイティプス——資本主義と分裂症』 市倉宏祐訳、河出書房新社 (G. Deleuze/F. Guattari, *L'ANTI-Œdipe: Capitalisme et schizophrénie*, Minuit, 1972)
- G・ドゥルーズ／F・ガタリ (1994) 『千のプラトー——資本主義と分裂症』 宇野邦一／小松秋広／田中敏彦ほか訳、河出書房新社 (G. Deleuze/F. Guattari, *Mille Plateaux: Capitalisme et schizophrénie*, Minuit, 1980)
- S・トゥールミン (2001) 『近代とは何か——その隠されたアジェンダ』 藤村龍雄／新井浩子訳、法政大学出版 (S. Toulmin, *Cosmopolis: The Hidden Agenda of Modernity*, The Free Press, 1990)
- R・ドーキンス (1991) 『利己的な遺伝子——増補改題「生物 = 生存機械論」』 (R. Dawkins, *The Selfish Gene*, Oxford University Press, 1976)
- E・トッド (1992) 『新ヨーロッパ大全 (I)』 島崎晴己訳、藤原書店 (E. Todd, *L'Invention de l'Europe*, du Seuil, 1990)
- A・ドブソン (2001) 『緑の政治思想——エコロジズムと変革の理論』 松野弘監訳／栗栖聡／池田寛二／丸山正次訳、ミネルヴァ書房 (A. Dobson, *Green Political Thought (2ed.)*, Routledge, 1995)
- R・ドロール／F・ワルテール (2006) 『環境の歴史——ヨーロッパ、原初から現代まで』 桃木暁子／門脇仁訳、みすず書房 (R. Delort et F. Walter, *Histoire de l'environnement européen*, Presses Universitaires de France, 2001)
- A・ネグリ／M・ハート (2003) 『〈帝国〉——グローバル化の世界秩序とマルチチュードの可能性』 水嶋一憲／酒井隆史／浜邦彦／吉田俊実訳、以文社 (M. Hardt/A. Negri, *Empire*, Harvard University Press, 2000)
- A・ネス (1997) 『ディープ・エコロジーとは何か——エコロジー・共同体・ライフスタ

- イル』斎藤直輔／開龍美訳、文化書房博文社 (A. Naess, *Ecology, Community, and Lifestyle: Outline an Ecosophy*, translated and edited by D. Rothenberg, Cambridge University Press, 1989)
- R・B・ノーガード (2003) 『裏切られた発展——進歩の終わりとも未来への共進化ビジョン』竹内憲司訳、勁草書房 (R. B. Norgaard, *Development Betrayed: The End of Progress and a Coevolutionary Revisioning of the Future*, Routledge, 1994)
- R・ノージック (2000) 『アナキー・国家・ユートピア——国家の正当性とその限界』嶋津格訳、水鐸社 (R. Nozick, *Anarchy, State, and Utopia*, Basic Books, 1974)
- P・ノフラー (2017) 『デザイナー・ベビー——ゲノム編集によって迫られる選択』中山潤一訳、丸善出版 (P. Knoepfler, *GMO Sapiens: The Life-Changing Science of Designer Babies*, World Scientific, 2016)
- M・ハイデッガー (1994) 『存在と時間 (上／下)』細谷貞雄訳、ちくま学芸文庫 (M. Heidegger, *Sein und Zeit*, Niemeyer, 2006)
- M・ハイデッガー (2013) 『技術への問い』関口浩訳、平凡社 (M. Heidegger, *Vorträge und Aufsätze*, Günther Neske, 1954)。
- D・ハーヴェイ (2007) 『新自由主義——その歴史的展開と現在』渡邊治監訳、森田成也／木下ちがや／大屋貞治／中村好孝訳、作品社 (D. Harvey, *A Brief History of Neoliberalism*, Oxford University Press 2005)
- A・G・バウムガルテン (2016) 『美学』松尾大訳、講談社学術文庫 (A. G. Baumgarten, *Aesthetica*, G. Olms, 1986)
- T・パーソンズ (1974) 『社会体系論 (現代社会学大系14)』佐藤勉訳、青木書店 (T. Parsons, *The Social System*, The Free Press, 1951)
- R・D・パットナム (2001) 『哲学する民主主義——伝統と改革の市民的構造』河田潤一訳、NTT出版 (R. D. Putnam, *Making Democracy Work: Civic Traditions in Modern Italy*, Princeton University Press, 1993)
- J・ハーバーマス (1985) 『コミュニケーション的行為の理論 (上)』河上倫逸／M・フーブリヒト／平井俊彦訳、未来社 (J. Habermas, *Theorie des kommunikativen Handelns (I)*, Suhrkamp, 1981)
- J・ハーバーマス (1986) 『コミュニケーション的行為の理論 (中)』藤沢賢一郎／岩倉正博／徳永恂ほか訳、未来社 (J. Habermas, *Theorie des kommunikativen Handelns (I-2)*, Suhrkamp, 1981)
- J・ハーバーマス (1987) 『コミュニケーション的行為の理論 (下)』丸山高司／丸山徳次／厚東洋輔ほか訳、未来社 (J. Habermas, *Theorie des kommunikativen Handelns*

- (2), Suhrkamp, 1981)
- J・ハーバーマス (1994) 『公共性の構造転換 (第2版)』 細谷貞雄／山田正行訳、未来社 (J. Habermas, *Strukturwandel der Öffentlichkeit: Untersuchungen zu einer Kategorie der bürgerlichen Gesellschaft*, Suhrkamp, 1990)
- I・バーリン (2000) 『二つの自由概念』 『自由論 (新装版)』 生松敬三訳、みすず書房 (I. Berlin, *Four Essays on Liberty*, Oxford University Press, 1969)
- S・バロン＝コーエン (1997) 『自閉症とマインドブラインドネス』 長野敬／長畑正道／今野義孝訳、青土社 (S. Baron-Cohen, *Mindblindness: An Essay on Autism and Theory of Mind*, The MIT Press, 1995)
- S・P・ハンチントン (1998) 『文明の衝突』 鈴木主税訳、集英社 (S. P. Huntington, *The Clash of Civilizations and the Remaking of World Order*, Simon & Schuster, 1996)
- N・ハンフリー (1993) 『内なる目——意識の進化論』 垂水雄二訳、紀伊國屋書店 (N. Humphrey, *The Inner Eye*, Faber & Faber, 1986)
- D・ヒューズ (2004) 『世界の環境の歴史』 奥田暁子／あべのぞみ訳、明石書店 (D. Hughes, *An Environmental History of the World: Humankind's Changing Role in the Community of Life*, Routledge, 2001)
- S・ピンカー (2004) 『人間の本性を考える——心は「空白の石版」か (上／中／下)』 山下篤子訳、NHKブックス (S. Pinker, *The Blank Slate: The Modern Denial of Human Nature*, Viking Penguin, 2002)
- W・F・フィッシャー／T・ポニア編 (2003) 『もうひとつの世界は可能だ——世界社会フォーラムとグローバル化への民衆のオルタナティブ』 加藤哲郎監修／大屋定晴／山口響／白石聡／木下ちがや監訳、日本経済評論社 (W. F. Fisher／T. Ponniah, *Another World is Possible: Popular Alternative to Globalization at the World Social Forum*, Zed Books, 2003)
- B・フェイガン (2005) 『古代文明と気候変動——人類の運命を変えた2万年史』 東郷えりか訳、河出書房新社 (B. Fagan, *The Long Summer: How Climate Changed Civilization*, Basic Books, 2004)
- B・フェイガン (2016) 『人類と家畜の世界史』 東郷えりか訳、河出書房新社 (B. Fagan, *The Intimate Bond*, Bloomsbury, 2015)
- L・A・フォイエルバッハ (1965) 『キリスト教の本質 (上／下)』 船山信一訳、岩波文庫 (L. A. Feuerbach, *Gesammelte Werke*, Bd.5, Akademie-Verlag, 1973)
- M・ブックチン (1996) 『エコロジーと社会』 藤堂麻理子／戸田清／萩原なつ子訳、白水社 (M. Bookchin, *Remaking Society: Pathways to a Green Future*, South End Press,

- 1990)
- M・フーコー (1975) 『狂気の歴史——古典主義時代における』 田村俊訳、新潮社 (M. Foucault, *Histoire de la folie à l'âge classique*, Gallimard, 1972)
- M・フーコー (1977) 『監獄の誕生——監視と処罰』 田村俊訳、新潮社 (M. Foucault, *Surveiller et Punir: Naissance de la prison*, Gallimard, 1975)
- E・フッサール (1995) 『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』 細谷恒夫／木田元訳、中公文庫 (E. Husserl, *Husserliana: gesammelte Werke*, Bd. 4, Martinus Nijhoff, 1954)
- E・フッサール (2001) 『デカルト的省察』 浜渦辰二訳、岩波文庫 (E. Husserl, *Husserliana: gesammelte Werke*, Bd. 1, Martinus Nijhoff, 1950)
- M・ブーバー (1979) 『我と汝・対話』 植田重雄訳、岩波文庫 (M. Buber, *Das dialogische Prinzip: Ich und Du, Zwiesprache, Die Frage an den Einzelnen, Elemente des Zwischenmenschlichen, Zur Geschichte des dialogischen Prinzips*, Schneider, 1984)
- M・ブライト (1986) 『動物たちの話し声』 熊田清子訳、どうぶつ社 (M. Bright, *Animal language*, Cornell University Press, 1984)
- H・ブルーマー (1991) 『シンボリック相互作用論——パースペクティヴと方法』 後藤将之訳、勁草書房 (H. Blumer, *Symbolic Interactionism: Perspective and Method*, Prentice-Hall, 1969)
- E・フロム (1955) 『人間における自由』 谷口隆之助／早坂泰次郎訳、東京創元新社 (E. Fromm, *Man for Himself: An Inquiry into the Psychology of Ethics*, Rinehart & Company, 1947)
- E・フロム (1965) 『自由からの逃走 (新版)』 日高六郎訳、東京創元社 (E. Fromm, *Escape from Freedom*, Henry Holt, 1994)
- E・フロム (1977) 『生きるということ』 佐野哲郎訳、紀伊國屋書店 (E. Fromm, *To Have or to Be?*, Harper & Row, 1976)
- G・W・F・ヘーゲル (1994) 『歴史哲学講義 (上／下)』 長谷川宏訳、岩波文庫 (G. W. F. Hegel, *Vorlesungen über die Philosophie der Geschichte*, Suhrkamp, 1986)
- G・W・F・ヘーゲル (1997) 『精神現象学 (上)』 檜山欽四郎訳、平凡社ライブラリー (G. W. F. Hegel, *Phänomenologie des Geistes*, Suhrkamp, 1970)
- W・ベック (1998) 『危険社会——新しい近代への道』 東廉／伊藤美登里訳、法政大学出版局 (W. Beck, *Risikogesellschaft: Auf dem Weg in eine andere Moderne*, Suhrkamp, 1986)
- W・ベック／A・ギデンズ／S・ラッシュ (1997) 『再帰的近代化——近現代における政

- 治、伝統、美的原理』松尾精文／小幡正敏／叶堂隆三訳、而立書房 (U. Beck/A. Giddens/S. Lash, *Reflexive Modernization: Politics, Tradition and Aesthetics in the Modern Social Order*, Polity Press, 1994)
- P・ベルウッド (2008) 『農耕起源の人類史』長田俊樹／佐藤洋一郎監訳、京都大学学術出版会 (P. Bellwood, *First Farmers: The Origins of Agricultural Societies*, Blackwell Publishing, 2005)
- G・ペルトナー (2017) 『哲学としての美学——〈美しい〉とはどういうことか』渋谷治美監訳／中野裕考／中村美智太郎／馬場智一／大森万智子共訳、晃洋書房 (G. Pöltner, *Philosophische Ästhetik*, W. Kohlhammer GmbH, 2008)
- E・ヘロルド (2017) 『超人類の時代へ——今、医療テクノロジーの最先端で』佐藤やえ訳、デイスカヴァー・トゥエンティワン (E. Herold, *Beyond Human: How Cutting-Edge Science is Extending Our Lives*, St. Martin's Press, 2016)
- R・ボイド／J・B・シルク (2011) 『ヒトはどのように進化してきたのか』松本晶子／小田亮訳、ミネルヴァ書房 (R. Boyd/J. B. Silk, *How Humans Evolved (9ed.)*, W. W. Norton & Company, 2021)
- T・ホブズ (1954) 『リヴァイアサン (I)』永田洋訳、岩波文庫 (T. Hobbes, *Leviathan or the Matter, Forme and Power of a Commonwealth, Ecclesiasticall and Civil*, Blackwell, 1960)
- J・ボードリヤール (1979) 『消費社会の神話と構造』今村仁司／塚原史訳、紀伊国屋書店 (J. Baudrillard, *La Société de consommation: ses mythes, ses structures*, Gallimard, 1986)
- P・ボンファス (2019) 『現代地政学——国際関係地図』佐藤絵理訳、デイスカヴァー・トゥエンティワン (P. Boniface, *Atlas des relations internationales: 100 cartes pour comprendre le monde de 1945 à nos jours*, Armand Colin, 2018)
- E・ホブズボーム (1996) 『20世紀の歴史——極端な時代 (上／下)』河合秀和訳、三省堂 (E. Hobsbawm, *Age of Extremes: The Short Twentieth Century 1914-1991*, Penguin Group, 1994)
- K・ポラニー (1975) 『大転換』吉沢英成他訳、東洋経済新報社 (K. Polanyi, *The Great Transformation: The Political and Economic Origins of Our Time*, Beacon Press, 1957)
- K・ポラニー (1980a) 『人間の経済 (1) ——市場社会の虚構性』玉野井芳郎／栗源慎一郎訳、岩波現代選書 (K. Polanyi, *The Livelihood of Man*, edited by H. W. Pearson, Academic Press, 1977)

- K・ポランニー (1980b) 『人間の経済 (2) ——交易・貨幣および市場の出現』 玉野井芳郎／中野忠訳、岩波現代選書 (K. Polanyi, *The Livelihood of Man*, edited by H. W. Pearson, Academic Press, 1977)
- K・ポランニー (2003) 『経済の文明史』 玉野井芳郎／平野健一郎編訳／石井溥／木畑洋一／長尾史郎／吉沢英成訳、ちくま学芸文庫
- K・ポランニー (2004) 『経済と文明——ダホメの経済人類学的分析』 栗源慎一郎／端信行訳、ちくま学芸文庫 (K. Polanyi, *Dahomey and the Slave Trade: An Analysis of an Archaic Economy*, University of Washington Press, 1966)
- C・ポンティング (1994) 『緑の世界史 (上／下)』 石弘之／京大環境史研究会訳、朝日新聞社 (C. Ponting, *A Green History of the World*, Sinclair-Stevenson, 1991)
- V・マイヤー＝ショーンベルガー／K・クキエ (2013) 『ビッグデータの正体——情報の産業革命がすべてを変える』 斎藤栄一郎訳、講談社 (V. Mayer-Schönberger／K. Cukier, *Big Data: A Revolution That Will Transform How We Live, Work and Think*, John Murray, 2013)
- A・E・マクグラス (2002) 『キリスト教神学入門』 神代真砂実訳、教文館 (A. E. McGrath, *Christian Theology: An Introduction (3ed.)*, Wiley-Blackwell, 2001)
- A・H・マズロー (1973) 『人間性の最高価値』 上田吉一訳、誠信書房 (A. H. Maslow, *The Farther Reaches of Human Nature*, Viking Press, 1971)
- A・H・マズロー (1987) 『人間性の心理学 (改訂新版)』 小口忠彦訳、産能大学出版 (A. H. Maslow, *Motivation and Personality (2ed.)*, Harper & Row, 1970)
- R・マッキーヴァー (1975) 『コミュニティ——社会学的研究 社会生活の性質と基本法則に関する一試論』 中久郎／松本通晴監訳、ミネルヴァ書房 (R. M. Maciver, *Community: a sociological study: being an attempt to set out the nature and fundamental laws of social life (4ed.)*, Cass, 1970)
- A・マッキンタイア (1993) 『美徳なき時代』 篠崎栄訳、みすず書房 (A. MacIntyre, *After Virtue: A Study in Moral Theory (2ed.)*, University of Notre Dame Press, 1984)
- C・マーチャント (1994) 『ラディカル・エコロジー』 川本隆史／須藤自由兎／水谷広訳、産業図書 (C. Merchant, *Radical Ecology: The Search for a Livable World*, Routledge, 1992)
- G・G・マーティン (2005) 『ヒューマン・エコロジー入門——持続可能な発展へのニュー・パラダイム』 天野明弘監訳／関本秀一訳、有斐閣 (G. G. Marten, *Human Ecology: Basic Concepts for Sustainable Development*, Earthscan, 2001)
- K・マルクス (1956) 『経済学批判』 武田隆夫／遠藤湘吉／大内力／加藤俊彦訳、岩波文

- 庫 (K. Marx/F. Engels, *Marx-Engels Werke*, Bd. 13, Dietz Verlag, 1961)
- K・マルクス (1958) 『経済学批判要綱 (第一分冊)』高木幸二郎訳、大月書店 (K. Marx / F. Engels, *Marx-Engels Werke*, Bd.42, Dietz Verlag, 1983)
- K・マルクス (1959) 『資本制生産に先行する諸形態』岡崎次郎訳、青木書店 (K. Marx / F. Engels, *Marx-Engels Werke*, Bd.42, Dietz Verlag, 1983)
- K・マルクス (1964) 『経済学・哲学草稿』城塚登/田中吉六訳、岩波文庫 (K. Marx/F. Engels, *Marx-Engels Werke*, Bd. 40, Dietz Verlag, 1968)
- K・マルクス/F・エンゲルス (1960) 「共産党宣言」『マルクス=エンゲルス全集 (第4巻)』大内兵衛/細川嘉六監訳、大月書店 (K. Marx/F. Engels, *Marx-Engels Werke*, Bd. 4, Dietz Verlag, 1959)
- K・マルクス/F・エンゲルス (1967) 「資本論」『マルクス=エンゲルス全集 (第25巻 b)』大内兵衛/細川嘉六監訳、大月書店 (K. Marx/F. Engels, *Marx-Engels Werke*, Bd. 25, Dietz Verlag, 1964)
- K・マルクス/F・エンゲルス (1977) 『ゴータ綱領批判/エルンフト綱領批判』全集刊行委員会訳、大月書店 (K. Marx/F. Engels, *Marx-Engels Werke*, Bd. 19, Dietz Verlag, 1987)
- K・マルクス/F・エンゲルス (2002) 『ドイツ・イデオロギー (新編輯版)』廣松渉編訳/小林昌人補訳、岩波文庫 (K. Marx/F. Engels, *Marx-Engels Werke*, Bd. 3, Dietz Verlag, 1958)
- T・R・マルサス (1973) 『人口論』永井義雄訳、岩波文庫 (T. R. Malthus, *An essay on the principle of population: or, A view of its past and present effects on human happiness*, Cambridge University Press, 1992)
- S・ミズン (1998) 『心の先史時代』松浦俊輔/牧野美佐緒訳、青土社 (S. Mithen, *The Prehistory of the Mind: A Search for the Origins of Art, Religion and Science*, Thames & Hudson, 1996)
- G・H・ミード (1973) 『精神・自我・社会』稲葉三千男/滝沢正樹/中野収訳、青木書店 (G. H. Mead, *Mind, Self, and Society from the Standpoint of a Social Behaviorist*, University of Chicago Press, 1934)
- J・P・ミラー (1988) 『ホリスティック教育——いのちのつながりを求めて』吉田敦彦/中川吉晴/手塚郁恵訳、春秋社 (J. P. Miller, *The Holistic Curriculum*, OISE Press, 1988)
- J・メイナード=スミス (1985) 『進化とゲーム理論——闘争の論理』寺本英/梶正之訳、産業図書 (J. Maynard-Smith, *Evolution and the Theory of Games*, Cambridge

- University Press, 1982)
- D・H・メドウズ／D・L・メドウズ、J・ランダズ／W・W・ベアランズ三世 (1972) 『成長の限界——ローマ・クラブ「人類の危機」レポート』大来佐武朗監訳、ダイヤモンド社 (D. H. Meadows/D. L. Meadows/J. Randers/W. W. Behrens III, *The Limits to Growth: A report for the Club of Rome's Project on the Predicament of Mankind*, Potomac Associates, 1972)
- J・ユクスキュル／G・クリサート (2005) 『生物から見た世界』日高敏隆／羽田節子訳、岩波文庫 (J. von Uexküll/G. Kriszat, *Streifzüge durch die Umwelten von Tieren und Menschen*, Fischer, 1970)
- H・ヨナス (2010) 『責任という原理——科学技術文明のための倫理学の試み』加藤尚武監訳、東信堂 (H. Jonas, *Das Prinzip Verantwortung: Versuch einer Ethik für die technologische Zivilisation*, Insel, 1979)
- G・ラジディンスキー (2000) 『栽培植物の進化』藤巻宏訳、農文協 (G. Ladizinsky, *Plant Evolution under Domestication*, Springer, 1998)
- D・ラスマッセン編 (1998) 『普遍主義対共同体主義』菊池理夫／山田晃／有賀誠訳、日本経済評論社 (D. Rasmussen, *Universalism vs. Communitarianism: Contemporary Debates in Ethics*, MIT Press, 1990)
- J = F・リオタール (1986) 『ポスト・モダンの条件——知・社会・言語ゲーム』小林康夫訳、水声社 (J.-F. Lyotard, *La condition postmoderne*, Les editions de Minuit, 1979)
- D・リースマン (1964) 『孤独な群衆』加藤秀俊訳、みすず書房 (D. Riesman, *The Lonely Crowd: A Study of the changing American Character*, Yale University Press, 1961)
- G・リッツァ (1999) 『マクドナルド化する社会』正岡寛司訳、早稲田大学出版部 (G. Ritzer, *McDonaldization of Society: An Investigation into the Changing Character of Contemporary Social Life*, Pine Forge Press, 1993)
- A・リングス (2006) 『信頼』岩本正恵訳、青土社 (A. Lingis, *Trust*, University of Minnesota Press, 2004)
- J・J・ルソー (2005a) 「人間不平等起原論」『人間不平等起原論／社会契約論』小林善彦／井上幸治訳、中公クラシックス (J. J. Rousseau, *Discours sur l'origine et les fondements de l'inégalité parmi les hommes*, Hatier, 1992)
- J・J・ルソー (2005b) 「社会契約論」『人間不平等起原論／社会契約論』小林善彦／井上幸治訳、中公クラシックス (J. J. Rousseau, *Du Contrat Social: Ou Principes Du Droit Politique*, Garnier Flammarion, 1966)
- N・ルーマン (1990) 『信頼——社会的な複雑性の縮減メカニズム』大庭健／正村俊之

- 訳、勁草書房 (N. Luhmann, *Vertrauen: ein Mechanismus der Reduktion sozialer Komplexität*, F. Enke, 1968)
- N・ルーマン (1993) 『社会システム理論 (上)』 佐藤勉訳、恒星社厚生閣 (N. Luhmann, *Soziale Systeme: Grundriß einer allgemeinen Theorie*, Suhrkamp, 1984)
- E・レヴィナス (1989) 『全体性と無限——外部性についての試論』 合田正人訳、国文社 (E. Lévinas, *Totalité et infini*, Martinus Nijhoff, 1961)
- E・レヴィナス (1999) 『存在の彼方へ』 合田正人訳、講談社学術文庫 (E. Lévinas, *Autrement qu'être ou au-delà de l'essence*, Martinus Nijhoff, 1974)
- K・レーヴィット (2008) 『共同存在の現象学』 熊野純彦訳、岩波文庫 (K. Löwith, *Das Individuum in der Rolle des Mitmenschen: Ein Beitrag zur anthropologischen Grundlegung der ethischen Probleme*, Habil-Schr. 1928)
- V・レーニン (1956) 『帝国主義』 宇高基輔訳、岩波文庫 (W. I. Lenin, *Der Imperialismus als höchstes Stadium des Kapitalismus*, Dietz, 1967)
- V・レーニン (1957) 『国家と革命』 宇高基輔訳、岩波文庫 (W. I. Lenin, *Staat und Revolution: die Lehre des Marxismus vom Staat und die Aufgaben des Proletariats in der Revolution*, Dietz, 1951)
- W・W・ロストウ (1961) 『経済成長の諸段階』 木村健康/久保まち子/村上泰亮訳、ダイヤモンド社 (W. W. Rostow, *The Stages of Economic Growth: A Non-Communist Manifesto*, Cambridge University Press, 1960)
- J・ロック (1968) 『市民政府論』 鶴飼信成訳、岩波文庫 (J. Locke, *Two Treatises of Government*, Cambridge University Press, 1988)
- J・ロールズ (2010) 『正義論 (改訂版)』 川本隆史/福岡聡/神島裕子訳、紀伊国屋書店 (J. Rawls, *A Theory of Justice*, Revised edition, Harvard University Press, 1999)
- K・ローレンツ (1997a) 『動物行動学 (上)』 丘直通/日高敏高訳、ちくま学芸文庫 (K. Lorenz, *Über tierisches und menschliches Verhalten: Aus dem Werdegang derv Verhaltenslehre*, Piper, 1965)
- K・ローレンツ (1997b) 『動物行動学 (下)』 日高敏高/丘直通訳、ちくま学芸文庫 (K. Lorenz, *Über tierisches und menschliches Verhalten: Aus dem Werdegang derv Verhaltenslehre*, Piper, 1965)
- M・ワケナゲル/W・リース (2004) 『エコロジカル・フットプリント——地球環境持続のための実践プランニング・ツール』 和田喜彦監訳/池田真理訳、合同出版 (M. Wackernagel/W. Rees, *Our Ecological Footprint: Reducing Human Impact on the Earth*, New Society Publishers, 1996)

- 『英語語源事典』下宮忠雄／金子貞夫／家村睦夫編、大修館書店、1989年
- 『英語語源事典（縮刷版）』寺澤芳雄編集主幹、研究社、1997年
- 『環境事典』日本科学者会議編、旬報社、2008年
- 『キリスト教辞典』大貫隆／名取四郎／宮本久雄／百瀬文晃編、岩波書店、2002年
- 『広辞苑（第7版）』岩波書店、2018年
- 『広説佛教語大辞典』東京書籍、2010年
- 『哲学・思想辞典』岩波書店、1998年
- 『哲学中辞典』知泉書館、2016年
- 『日本国語大辞典（第2版、ジャパナレッジ版）』小学館、2007年、
- 『日本語源広辞典（増補版）』増井金典、ミネルヴァ書店、2012年
- 『仏教・インド思想辞典（新装版）』早島鏡正監修／高崎直道編集代表、春秋社、2013年

